



肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による薬剤耐性機序に関する検討

2001年1月1日から2022年12月31日までに肺癌と診断された患者さん

研究協力をお願い

当科では「肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による薬剤耐性機序に関する検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2001年1月1日から2022年12月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、肺癌と診断された患者さんの腫瘍組織における蛋白発現と薬物療法の効果を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による薬剤耐性機序に関する検討

研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 呼吸器内科 大学院教授 清家 正博

(2) 研究の意義、目的について

肺癌と診断された患者さんの腫瘍組織における蛋白発現と薬物療法の効果を検討することで、薬物療法の効果が乏しくなる原因となる蛋白質を明らかにすることを目的といたします。また、治療経過中に複数回の病理検査を行われた患者さんにおいては、治療前後の蛋白発現状況の変化を調べることで薬剤耐性の機序を明らかにすることを目的といたします。本研究により、薬物療法の効果が乏しくなる原因となる蛋白質や薬剤耐性の機序が明らかになれば、新規治療開発に繋がる可能性があります。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2001年1月1日から2022年12月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、肺癌と診断された患者さんの腫瘍組織における蛋白発現を評価し、薬物療法の効果との関連についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：気管支鏡検査やCTガイド下生検、手術等により採取した腫瘍組織の残余検体

情報：年齢、性別、Performance status（患者さんの日常生活の制限の程度）、喫煙歴、ステージ、組織型、遺伝子変異、PD-L1発現状況（免疫チェックポイント阻害薬の効果予測のための病理検査）、CT・MRI・PET等の画像検査結果、血液検査結果、病理細胞診結果・病理組織結果、転移部位、副作用、治療開始日、転帰（治療における症状の経過や結果）ならびに転帰日、治療終了日等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 呼吸器内科 大学院教授 清家 正博

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6651

メールアドレス：m-seike@nms.ac.jp